

第2部 財務報告の部



VI. 宇城市行政経営の 分析と検討

Ⅰ. 宇城市普通会計貸借対照表の分析と検討

普通会計貸借対照表

(単位：百万円)

| 【資産の部】 | 平成17年度 | 平成18年度 | 差額 | 【負債の部】 | 平成17年度 | 平成18年度 | 差額 |
|-------------|--------|--------|-------|----------------|--------|--------|-------|
| 1. 公共資産 | 86,550 | 87,239 | 689 | 1. 固定負債 | 37,025 | 37,516 | 491 |
| (1) 有形固定資産 | 85,624 | 86,313 | 689 | (1) 地方債 | 30,685 | 30,953 | 268 |
| (2) 売却可能資産 | 926 | 926 | 0 | (2) 退職金引当金 | 6,340 | 6,563 | 223 |
| 2. 投資等 | 7,966 | 7,479 | △ 487 | 2. 流動負債 | 2,959 | 3,220 | 261 |
| (1) 投資及び出資金 | 6,305 | 6,308 | 3 | (1) 翌年度償還予定地方債 | 2,627 | 2,902 | 275 |
| (2) 貸付金 | 200 | 166 | △ 34 | (2) その他 | 332 | 318 | △ 14 |
| (3) 基金等 | 1,081 | 625 | △ 456 | 負債合計 | 39,984 | 40,736 | 752 |
| (4) 長期延滞債権 | 500 | 501 | 1 | | | | |
| (5) 回収不能見込額 | △ 120 | △ 121 | △ 1 | 【純資産の部】 | | | |
| 3. 流動資産 | 3,201 | 3,143 | △ 58 | 純資産合計 | 57,733 | 57,125 | △ 608 |
| (1) 資金 | 3,081 | 3,045 | △ 36 | | | | |
| (2) 未収金 | 120 | 131 | 11 | 負債及び純資産合計 | 97,717 | 97,861 | 144 |
| (3) 回収不能見込額 | 0 | △ 33 | △ 33 | | | | |
| 資産合計 | 97,717 | 97,861 | 144 | | | | |

普通会計の平成18年度末資産の総額は979億円で、前年度に対して1億円増加しています。資産の内訳は、公共資産が872億円、投資等が75億円、流動資産が31億円となっていて、公共資産の割合が他の資産に比べ非常に高くなっています。資産の大部分を占める公共資産は、過去に形成された社会資本であり市民サービスの水準を維持向上させていくために有効に活用していくことが求められています。

主な増減要因は、有形固定資産に於いては前年度に比べ7億円増加しています。内訳をみると、統合三角小学校建設に伴う教育の3億円の増加、庁舎新館、三角支所、豊野支所建設に伴う総務の4億円の増加、防災無線整備に伴う消防の2億円の増加となっています。新たな資産形成よりも減価償却費が上回っているために、福祉の1億円の減、環境衛生の1億円の減があります。また、売却可能資産(道路残地、公園跡地、憩いの家跡地等)の9億円(同0.9%)の処分が課題となっています。

18年度末の負債の総額は407億円で、前年度に対して8億円増加しています。負債の内訳は固定負債が375億円、流動負債が32億円となっています。

主な増減要因は、庁舎・小学校等建設のため合併特例債など地方債の3億円増、退職手当引当金の2億円の増加などがあります。

VI. 宇城市行政経営の分析と検討

2. 宇城市連結貸借対照表の分析と検討

連結貸借対照表

(単位：百万円)

| 【資産の部】 | 平成17年度 | 平成18年度 | 差額 | 【負債の部】 | 平成17年度 | 平成18年度 | 差額 |
|-------------|---------|---------|-------|----------------|---------|---------|-------|
| 1. 公共資産 | 124,139 | 124,913 | 774 | 1. 固定負債 | 60,127 | 59,937 | △ 190 |
| (1) 有形固定資産 | 123,213 | 123,987 | 774 | (1) 地方債 | 52,758 | 52,234 | △ 524 |
| (2) 売却可能資産 | 926 | 926 | 0 | (2) 退職金引当金 | 7,369 | 7,703 | 334 |
| 2. 投資等 | 6,856 | 6,012 | △ 844 | 2. 流動負債 | 4,191 | 4,594 | 403 |
| (1) 投資及び出資金 | 4,540 | 4,543 | 3 | (1) 翌年度償還予定地方債 | 3,719 | 4,078 | 359 |
| (2) 貸付金 | 200 | 166 | △ 34 | (2) その他 | 472 | 516 | 44 |
| (3) 基金等 | 1,260 | 742 | △ 518 | 負債合計 | 64,318 | 64,531 | 213 |
| (4) 長期延滞債権 | 990 | 891 | △ 99 | | | | |
| (5) その他 | 1 | 1 | 0 | | | | |
| (6) 回収不能見込額 | △ 135 | △ 331 | △ 196 | 【純資産の部】 | | | 0 |
| 3. 流動資産 | 5,536 | 5,373 | △ 163 | 純資産合計 | 72,213 | 71,767 | △ 446 |
| (1) 資金 | 5,032 | 4,815 | △ 217 | | | | |
| (2) 未収金 | 479 | 567 | 88 | | | | |
| (3) その他 | 25 | 24 | △ 1 | | | | |
| (3) 回収不能見込額 | 0 | △ 33 | △ 33 | | | | |
| 資産合計 | 136,531 | 136,298 | △ 233 | 負債及び純資産合計 | 136,531 | 136,298 | △ 190 |

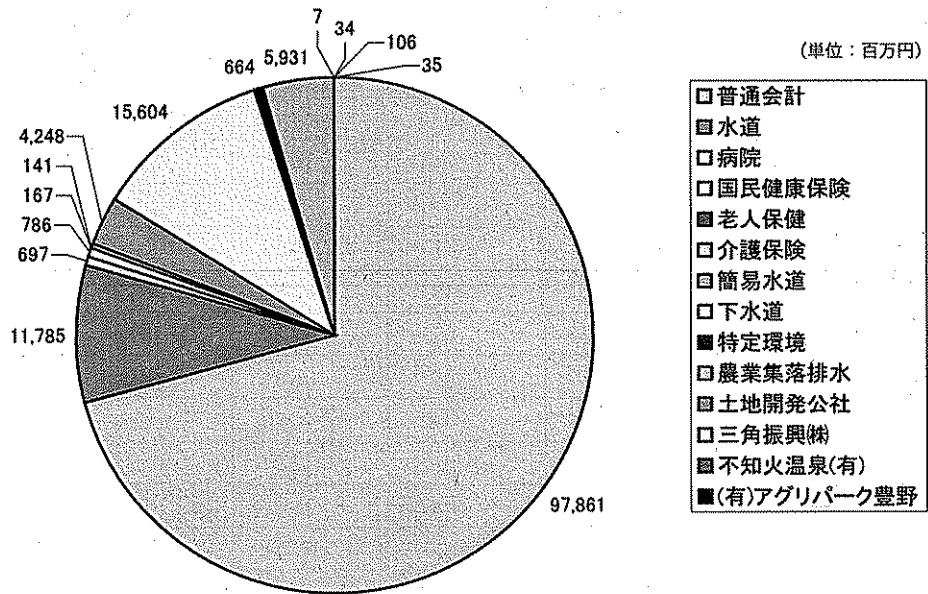
① 連結貸借対照表経年比較

平成18年度における連結貸借対照表では、普通会計、特別会計、企業会計、土地開発公社、第3セクターの会計を連結して、資産総額は1,363億円となり、前年度に比べて2億円減少しています。内訳は、有形固定資産総額が1,249億円で、市役所新館建設、三角小学校建設、防災行政無線整備等の整備により、前年度に比べ8億円増加しています。投資等総額は60億円で、庁舎建設基金の取崩等により8億円減少しています。流動資産は54億円で水道事業会計の資金の減少、財政調整基金の取崩等により8億円減少しています。

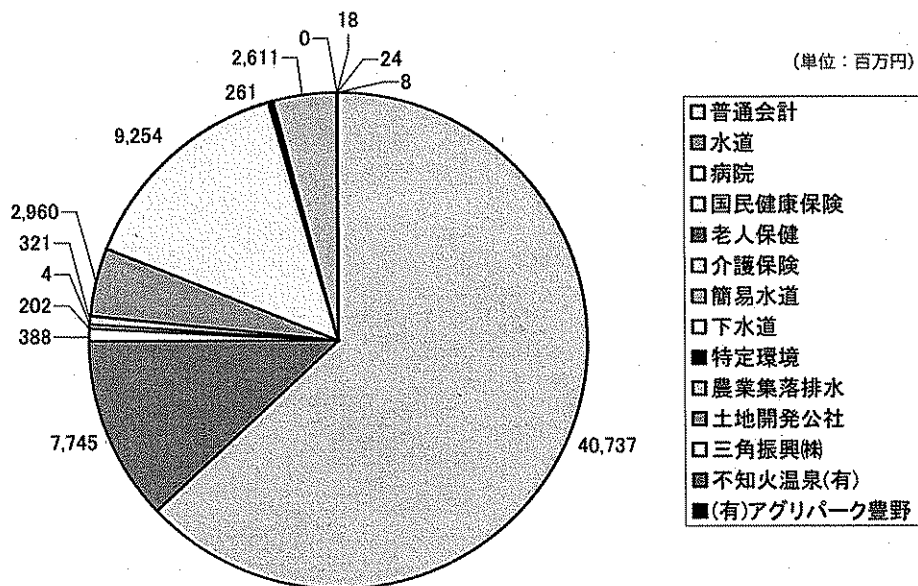
負債総額では645億円となり、前年度に比べ2億円増加しています。内訳は、固定負債が599億円で普通会計の庁舎・小学校建設事業の伸びにより地方債の3億円増加、水道事業会計の建設事業の減少により地方債の4億円減少、農業集落排水の建設事業の減少により3億円減少し、総額の5億円減少となっています。

純資産総額は718億円となり、前年度に比べて5億円減少しています。これは、普通会計で6億円減少、国民健康保険特別会計で5億円減少、下水道事業特別会計3億円増加、水道事業会計3億円増加等によるものです。

資産合計



負債合計



VI. 宇城市行政経営の分析と検討

②普通会計貸借対照表と連結貸借対照表との比較

(単位：百万円)

| | 普通会計の 貸借対照表 | | 連結貸借対照表 | | 連単倍率 (倍) |
|------------|----------------|---------|---------|---------|-------------|
| | 金額 | 構成比 | 金額 | 構成比 | |
| 公共資産 | 87,239 | 89.15% | 124,913 | 91.65% | 1.43 |
| 投資等 | 7,479 | 7.64% | 6,012 | 4.41% | 0.8 |
| 流動資産 | 3,143 | 3.21% | 5,373 | 3.94% | 1.71 |
| 資産合計 | 97,861 | 100.00% | 136,298 | 100.00% | 1.39 |
| 地方債/企業債 | 30,953 | 31.63% | 52,234 | 38.32% | 1.69 |
| 退職給与引当金 | 6,563 | 6.71% | 7,703 | 5.65% | 1.17 |
| 翌年度償還予定地方債 | 2,902 | 2.97% | 4,078 | 2.99% | 1.41 |
| その他の負債 | 318 | 0.32% | 516 | 0.38% | 1.62 |
| 負債合計 | 40,736 | 41.63% | 64,531 | 47.35% | 1.58 |
| 純資産 | 57,125 | 58.37% | 71,767 | 52.65% | 1.26 |
| 負債・純資産合計 | 97,861 | 100.00% | 136,298 | 100.00% | 1.39 |

宇城市の普通会計貸借対照表と連結貸借対照表を比較すると、資産合計は普通会計ベース979億円に対して、連結ベース1,363億円と380億円多くなっています(普通会計決算書と連結決算書を比較する連単倍率の概念を用いると、連単倍率1.39倍)。内訳を見てみると、公共資産が普通会計ベース872億円に対し連結ベース1,249億円(連単倍率1.43倍)となっています。これは、連結ベースで下水道事業(農業集落排水事業を含む)における有形固定資産220億円、水道事業(簡易水道事業を含む)の有形固定資産152億円が計上されていることなどによるものです。

一方、負債の部は地方債(公営企業における企業債を含む。)が普通会計ベース407億円に対して、連結ベース645億円と238億円多くなっています(連単倍率1.58倍)、上下水道の社会資本整備等が地方債/企業債の発行により行われているためです。また、資産合計に対する負債比率は普通会計ベースでは41.6%であるのに対し、連結ベースでは47.5%へと高くなっています。これは、普通会計として行う社会資本整備に比べ上下水道の整備は、将来負担が高いためです。

3. 宇城市連結行政コストの分析と検討

連結行政コスト計算書

(単位：百万円)

| | 平成 17 年度 | | 平成 18 年度 | | 差額 |
|---------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|----------|
| | 総額 | 構成比率 | 総額 | 構成比率 | |
| 【経常行政コスト】a | 41,640 | 100.0% | 42,063 | 101.0% | 423 |
| 1. 人にかかるコスト | 6,371 | 15.3% | 6,457 | 15.5% | 86 |
| (1)人件費 | 5,386 | 12.9% | 5,471 | 13.1% | 85 |
| (2)退職手当引当金繰入 | 607 | 1.5% | 593 | 1.4% | △ 14 |
| (3)賞与引当金繰入額 | 378 | 0.9% | 393 | 0.9% | 15 |
| 2. 物にかかるコスト | 7,918 | 19.0% | 7,844 | 18.8% | △ 74 |
| (1)物件費 | 3,354 | 8.1% | 3,252 | 7.8% | △ 102 |
| (2)減価償却費 | 4,368 | 10.5% | 4,381 | 10.5% | 13 |
| (3)維持補修費 | 196 | 0.5% | 211 | 0.5% | 15 |
| 3. 移転支的的なコスト | 25,588 | 61.5% | 25,625 | 61.5% | 37 |
| (1)社会保障給付 | 20,317 | 48.8% | 20,670 | 49.6% | 353 |
| (2)補助金等 | 4,858 | 11.7% | 4,532 | 10.9% | △ 326 |
| (3)公共資産整備補助金等 | 413 | 1.0% | 423 | 1.0% | 10 |
| 4. その他のコスト | 1,763 | 4.2% | 2,137 | 5.1% | 374 |
| (1)公債費(利払) | 1,384 | 3.3% | 1,311 | 3.1% | △ 73 |
| (2)回収不能見込額 | 47 | 0.1% | 470 | 1.1% | 423 |
| (3)その他の行政コスト | 332 | 0.8% | 356 | 0.9% | 24 |
| 【経常収益】b | 12,746 | | 12,956 | | 210 |
| 使用料・手数料等 | 12,746 | | 12,956 | | 210 |
| b/a | 0.306 | | 0.308 | | 0.001914 |
| 純経常行政コスト(経常費用－経常収益) | 28,894 | | 29,107 | | 213 |

①連結行政コスト計算書経年比較

平成18年度の連結行政コスト計算書では、経常行政コストが前年度に比べ4億円増加の421億円、経常収益は前年度に比べ2億円増加の130億円となり、経常行政コストから経常収益差引である純行政コストは前年度より2億円増加の291億円となりました。

平成18年度純行政コストの増加要因を会計別にみると、国民健康保険特別会計に於いて経常行政コストが7億円増加したのに対して、経常収益が5億円増加に止まり、収益差引の純コストが2億円の増加したこと、介護保険特別会計では経常行政コストが1億円減少し、経常収益の増減が無かったため、収益差引が1億円減少しました。

性質別の増加要因では、社会保障給付費が4億円増加の207億円、回収不能見込額が3億円増加の5億円、人件費が1億円増加の55億円。減少要因は補助金等が3億円減少の45億円です。

各会計の純行政コストは、国民健康保険特別会計、老人保健特別会計など5会計が増加し、介護保険特別会計、水道事業会計など5会計が減少しています。以上のことから、経常行政コストは国民健康保険特別の社会給付費、回収不能見込み額が増加、また普通会計の回収不能見込額、団塊世代の大量退職者に伴う退職金等の人件費の増加が経常行政コストを押し上げています。また、経常収益では国民健康保険の社会保障給付金の増加に伴う共同事業交付金が増加しています。

経常収益は、保育料、証明手数料、施設利用料など受益者負担を表しています。どの程度受益者負担で賄われているか見るためには、経常行政コストと経常収益との比率 b/a は31%になっています。

VI. 宇城市行政経営の分析と検討

普通会計行政コスト計算書と連結行政コスト計算書

(単位：百万円)

| | 普通会計行政コスト | | 連結行政コスト | | 連単倍率(倍) |
|-------------------------|---------------|----------------|---------------|----------------|--------------|
| | 金額 | 構成比 | 金額 | 構成比 | |
| 【経常行政コスト】a | 21,272 | 100.00% | 42,063 | 100.00% | 1.98 |
| 1. 人にかかるコスト | 5,539 | 15.30% | 6,457 | 15.35% | 1.17 |
| (1)人件費 | 4,711 | 12.90% | 5,471 | 13.01% | 1.16 |
| (2)退職手当引当金繰入 | 510 | 1.50% | 593 | 1.41% | 1.16 |
| (3)賞与引当金繰入額 | 318 | 0.90% | 393 | 0.93% | 1.24 |
| 2. 物にかかるコスト | 5,200 | 19.00% | 7,844 | 18.65% | 1.51 |
| (1)物件費 | 2,103 | 8.10% | 3,252 | 7.73% | 1.55 |
| (2)減価償却費 | 2,950 | 10.50% | 4,381 | 10.42% | 1.49 |
| (3)維持補修費 | 147 | 0.50% | 211 | 0.50% | 1.44 |
| 3. 移転支出的なコスト | 9,751 | 61.50% | 25,625 | 60.92% | 2.63 |
| (1)社会保障給付 | 3,322 | 48.80% | 20,670 | 49.14% | 6.22 |
| (2)補助金等 | 2,654 | 11.70% | 4,532 | 10.77% | 1.71 |
| (3)公共資産整備補助金等 | 3,775 | 1.00% | 423 | 1.01% | 0.11 |
| 4. その他のコスト | 782 | 4.20% | 2,137 | 5.08% | 2.73 |
| (1)公債費(利私) | 634 | 3.30% | 1,311 | 3.12% | 2.07 |
| (2)回収不能見込額 | 148 | 0.10% | 470 | 1.12% | 3.18 |
| (3)その他の行政コスト | 0 | 0.80% | 356 | 0.85% | 皆増 |
| 【経常収益】b | 761 | | 12,956 | | 17.02 |
| 使用料・手数料等 | 761 | | 12,956 | | 17.02 |
| b/a | 3.6% | | 30.8% | | |
| 純経常行政コスト (経常費用-経常収益) | 28,894 | | 29,107 | | 1.01 |

②普通会計行政コスト計算書と連結行政コスト計算書との比較

宇城市の普通会計行政コスト計算書と連結行政コスト計算書を比較すると、経常行政コストは普通会計ベース213億円に対して、連結ベース421億円と208億円多くなっています(連単倍率1.98倍)。内訳を見てみると、人にかかるコストが普通会計ベース55億円に対し連結ベース65億円(連単倍率1.17倍)、物にかかるコストが普通会計ベース52億円に対し連結ベース78億円(連単倍率1.51倍)、移転支出的なコストが普通会計ベース98億円に対し連結ベース256億円(連単倍率2.63倍)、その他のコストが普通会計ベース8億円に対し連結ベース21億円(連単倍率2.73倍)となっています。

一方、経常収支の部は普通会計ベース8億円に対して、連結ベース130億円と122億円(連単倍率17.02倍)多くなっています。

受益者負担率を見ると普通会計では3.6%、連結会計では30.8%と大きく異なるのは、特別会計、企業会計は原則受益者負担で賄われているためです。

4. 主要な財務指標の推移

| | 15年度 | 16年度 | 17年度 | 18年度 | 対前年度 増減 |
|---------|------|------|------|------|------------|
| 財政力指数 | 0.37 | 0.38 | 0.40 | 0.42 | 0.02 |
| 実質収支比率 | 6.8 | 3.0 | 5.7 | 4.8 | △ 0.9 |
| 経常収支比率 | 87.4 | 93.0 | 93.0 | 94.6 | 1.6 |
| 公債費負担比率 | 15.6 | 14.7 | 16.3 | 16.6 | 0.3 |
| 起債制限比率 | 8.8 | 8.3 | 9.1 | 9.4 | 0.3 |

財政力指数は「0.4」で自主財源に乏しく、地方交付税等の国や県の動向に影響されやすい財政構造をもっています。「1」に近いほど財政力が強く、地方交付税算定にあたり「留保財源」が大きくなっています。

実質収支比率は「4.8%」で、一般的に3～5%程度が望ましいとされている範囲内です。

経常収支比率は、財政構造の弾力性を示します。宇城市では、経常一般財源に占める経常経費の割合で、「94.6%」と極めて高く財政の硬直化(自由に使えるお金が少ない。)が進んでいます。一般的に市では80%以下が望ましいとされています。性質別では、人件費29.9%、補助費等(一組負担金除く)15.3%、公債費19.0%、繰出金(特別会計)13.6%となっています。

公債費負担比率は、公債費による負担の度合いを示すもので、「16.6%」となり、年々上昇しています。15%が警戒ライン、20%が危険ラインとされています。起債制限比率は、標準財政規模(標準税収入額等+地方交付税+臨財債)等に占める公債費充当一般財源等の占める割合で、財政の危機的状況回避指数を示しますが、宇城市では「9.4%」と堅調に推移しています。20%以上で起債制限があります。

財政健全化指標

| | 17年度 | 18年度 | 対前年度比 |
|----------|------|------|-------|
| 実質公債費比率 | 14.6 | 15.9 | 1.3 |
| 実質赤字比率 | | 黒字 | - |
| 連結実質赤字比率 | | 黒字 | - |

実質公債費比率は、市全体の公債費等の負担度合いを示すもので、「15.9%」となっています。前年度比較で1.3ポイント上昇しています。18%以上で起債許可団体。起債制限比率の分子に、債務負担行為、特別会計繰出金、企業会計負担金補助金、一部事務組合の公債費等負担金を加算したもので、単年度ベースでは、1.7ポイント上昇し「17.0%」となっています。会計別では、一般会計で0.7ポイント、水道事業会計で0.5ポイント、下水道(農集合む)事業会計で0.8ポイント上昇しています。実質赤字比率、連結実質赤字比率はともに黒字です。

これらの指標は、平成19年度施行の「自治体財政健全化法」の健全化判断比率の一つになっており、平成20年度決算から一定水準を超えると起債の制限はもとより、「財政健全化計画」を策定・議決・公表・総務大臣等への報告、及び毎年実施状況について、議会報告・公表を行うこととされており、実施状況によっては、国から改善勧告がなされます。

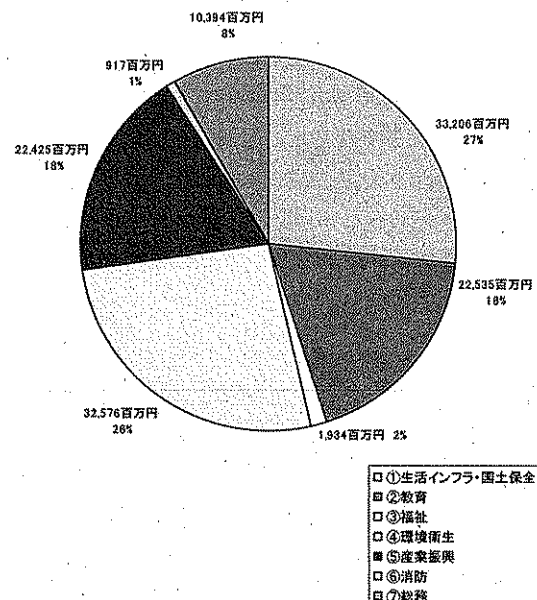
VI. 宇城市行政経営の分析と検討

5. まとめ

①公共資産と主要な行政財産

公共資産は、「有形固定資産」と「売却可能資産」から成っていて、資産合計額の1,362億98百万円のうち公共資産は1,240億13百万円であり、資産合計額の91.6%を占めています。有形固定資産を行政目的別に見ると、金額の大きい順に生活インフラ・国土保全が332億6百万円(27%)、環境衛生が325億76百万円(26%)、教育が225億35百万円(18%)、産業振興が224億25百万円(18%)となっています。宇城市の有形固定資産は、道路や住宅整備の生活インフラ・国土保全施設整備、下水道、水道整備の環境衛生施設整備、小中学校や社会教育・体育施設の教育施設整備、農道や漁港の産業振興施設に力を注いできました。

目的別有形固定資産割合

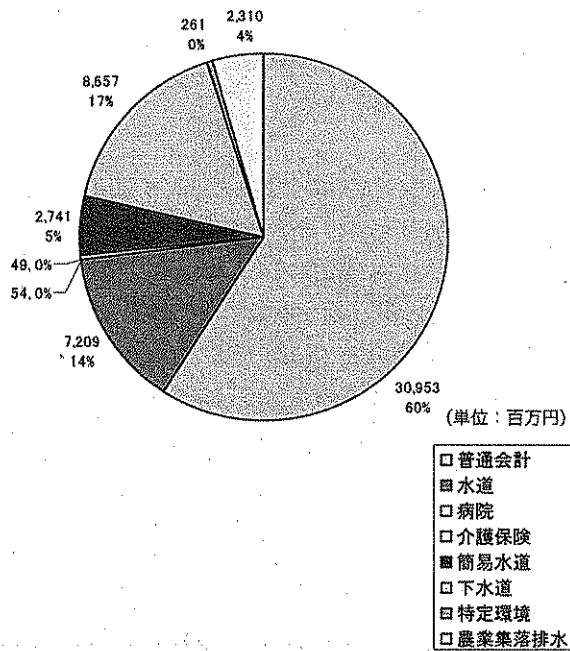


平成18年度の主要な行政財産整備としては、市役所新館7億28百万円、豊野支所5億98百万円、三角小学校5億34百万円、三角支所3億17百万円です。

②負債の管理

負債は固定負債と流動負債に分類されます。固定負債は翌年度以降に支払や返済が行われるもので、地方債、長期未払金、退職手当引当金が該当します。地方債は全体で522億37百万円、昨年度に比べ5億24百万円減少しています。会計別に見ると普通会計が309億53百万円(60%)、下水道会計86億57百万円(17%)、水道事業72億9百万円(14%)になります。

固定負債(地方債)



退職手当引当金は77億3百万円で、昨年度に比べ3億34百万円増加している、職員数は減少していますが、職員一人当たりの退職手当引当金が増加し、退職手当組合の積立金も1億87百万円の赤字です。これに対して、「退職手当目的基金」や「退職手当組合積立金」が計上されていないため、全額を将来の税収や財政調整基金の取崩で賄わなければなりません。

③重要な補助金

補助金は、資産形成の補助金と行政コストの補助金の2種類に分類されます。他団体及び民間への支出金により形成された資産が総額で97億12百万円であり、宇城市全体の有形固定資産の7.8%が他団体及び民間を通じて形成されています。またそのうち、産業振興が55億16百万円で半数以上を占めています。特に宇城市の場合農業関連施設に対する補助金がほとんどを占めます。行政コストにおける補助金は45億31百万円で、経常行政コスト総額420億64百万円の10.8%を占めています。平成18年度の補助金としては大きなものは、排水対策特別事業償還金補助金75百万円、地方バス運行等特別対策補助金68百万円、社会福祉協議会補助金65百万円、中山間地域直接払事業補助金63百万円、ハウスリース事業補助金60百万円等です。

④重要な偶発事項

現在宇城市が対象となっている訴訟はありません。

VII. 基本財務諸表

1. 普通会計

(1) 貸借対照表

普通会計貸借対照表 (平成 19 年 3 月 31 日現在)

(単位：千円)

| 借 方 | | 貸 方 | |
|--------------|-----------------|----------------------|----------------|
| 【資産の部】 | | 【負債の部】 | |
| 1 公共資産 | | 1 固定負債 | |
| (1) 有形固定資産 | | (1) 地方債 | 30,952,709 |
| ①生活インフラ・国土保全 | 33,206,470 | (2) 長期未払金 | |
| ②教育 | 22,535,430 | ①物件の購入等 | 0 |
| ③福祉 | 1,517,654 | ②債務保証又は損失補償 | 0 |
| ④環境衛生 | 1,282,640 | ③その他 | 0 |
| ⑤産業振興 | 16,459,834 | 長期未払金計 | 0 |
| ⑥消防 | 916,971 | (3) 退職手当引当金 | 6,563,325 |
| ⑦総務 | 10,394,197 | 固定負債合計 | 37,516,034 |
| 有形固定資産合計 | 86,313,196 □※1 | | |
| (2) 売却可能資産 | 926,240 □※2 | 2 流動負債 | |
| 公共資産合計 | 87,239,436 | (1) 翌年度償還予定地方債 | 2,902,434 |
| | | (2) 短期借入金 (翌年度繰上充用金) | 0 |
| 2 投資等 | | (3) 未払金 | 0 |
| (1) 投資及び出資金 | | (4) 翌年度支払予定退職手当 | 0 |
| ①投資及び出資金 | 6,307,994 | (5) 賞与引当金 | 318,271 |
| ②投資損失引当金 | 0 | 流動負債合計 | 3,220,705 |
| 投資及び出資金計 | 6,307,994 □※3 | | |
| (2) 貸付金 | 166,496 □※4 | 負債合計 | 40,736,739 |
| (3) 基金等 | | | |
| ①退職手当目的基金 | 0 | 【純資産の部】 | |
| ②その他特定目的基金 | 625,201 | 1 公共資産等整備国県補助金等 | ※7□ 16,058,098 |
| ③土地開発基金 | 0 | 2 公共資産等整備一般財源等 | 54,715,622 |
| ④その他定額運用基金 | 0 | 3 その他一般財源等 | △ 13,767,816 |
| ⑤退職手当組合積立金 | 0 | 4 資産評価差額 | ※8□ 118,654 |
| 基金等計 | 625,201 □※5-1 | 純資産合計 | 57,124,558 |
| (4) 長期延滞債権 | 501,094 □※6-1 | | |
| (5) 回収不能見込額 | △ 121,447 □※6-2 | | |
| 投資等合計 | 7,479,338 | | |
| 3 流動資産 | | | |
| (1) 現金預金 | | | |
| ①財政調整基金 | 1,427,954 □※5-2 | | |
| ②減価基金 | 601,940 □※5-3 | | |
| ③総計現金 | 1,014,674 | | |
| 現金預金計 | 3,044,568 | | |
| (2) 未収金 | | | |
| ①地方債 | 103,482 □※6-3 | | |
| ②その他 | 27,080 □※6-4 | | |
| ③回収不能見込額 | △ 32,607 □※6-5 | | |
| 未収金計 | 97,955 | | |
| 流動資産合計 | 3,142,523 | | |
| 資 産 合 計 | 97,861,297 | 負債・純資産合計 | 97,861,297 |

参照先

- | | | | | |
|-----------------------------|----------------|-------------|--------------|----------------|
| ※1□(7) 付属明細書 ①有形固定資産明細表 ※□⑥ | ※6-2□(7) 付属明細書 | ④貸付金、未収金※□② | ※7□(7) 付属明細書 | ⑧国・県支出金算出表 ※□① |
| ※2□(7) 付属明細書 ②売却可能資産明細書 ※□① | ※5-2□(7) 付属明細書 | ⑤基金等明細表※□① | ※8□(7) 付属明細書 | ②売却可能資産明細書 ※□② |
| ※3□(7) 付属明細書 ③投資及び出資金※□① | ※5-3□(7) 付属明細書 | ⑥基金等明細表※□② | | |
| ※4□(7) 付属明細書 ④貸付金、未収金※□⑥ | ※6-3□(7) 付属明細書 | ④貸付金、未収金※□③ | | |
| ※5-1□(7) 付属明細書 ⑤基金等明細表※□③ | ※6-4□(7) 付属明細書 | ④貸付金、未収金※□④ | | |
| ※6-1□(7) 付属明細書 ④貸付金、未収金※□① | ※6-5□(7) 付属明細書 | ④貸付金、未収金※□⑤ | | |

(2) 行政コスト計算書

普通会計行政コスト計算書 (自平成18年4月1日 至平成19年3月31日)

【経常行政コスト】

(単位：千円)

| | 総額 | (構成比率) | 生活インフラ・ 国土保安 | 教育 | 福祉 | 環境衛生 | 産業振興 | 消防 | 総務 | 議会 | 支払利息 | 回収不能 見込計上額 | その他 行政コスト |
|------------------------|------------|--------|-----------------|-----------|-----------|-----------|-----------|---------|-----------|---------|---------|---------------|--------------|
| 1 (1)人件費 | 4,710,888 | 21.7% | 238,924 | 825,068 | 824,403 | 276,384 | 401,383 | 40,719 | 1,941,702 | 161,285 | | | 0 |
| (2)退職手当引当金繰入等 | 510,261 | 2.4% | 28,890 | 87,070 | 102,460 | 33,848 | 49,688 | 0 | 177,357 | 19,888 | | | 0 |
| (3)賞与引当金繰入額 | 318,271 | 1.5% | 24,286 | 53,650 | 63,314 | 26,511 | 35,806 | 0 | 102,614 | 12,076 | | | 0 |
| 小計 | 5,539,400 | 25.5% | 294,100 | 975,787 | 990,177 | 336,743 | 486,856 | 40,719 | 2,221,673 | 193,332 | | | 0 |
| 2 (1)物件費 | 2,102,678 | 9.7% | 82,088 | 651,173 | 147,839 | 481,393 | 137,641 | 57,379 | 532,740 | 12,417 | | | 0 |
| (2)維持補修費 | 147,164 | 0.7% | 76,713 | 41,903 | 5,103 | 79 | 4,605 | 7,264 | 11,297 | 0 | | | 0 |
| (3)減価償却費 | 2,949,316 | 13.6% | 867,613 | 578,850 | 111,745 | 70,637 | 850,371 | 88,160 | 381,440 | | | | 0 |
| 小計 | 5,199,156 | 24.0% | 1,026,414 | 1,272,026 | 264,687 | 552,109 | 982,817 | 153,803 | 925,483 | 12,417 | | | 0 |
| 3 (1)社会保険給付 | 3,321,621 | 15.3% | | 37,126 | 3,191,895 | 92,600 | | | | | | | 0 |
| (2)補助金等 | 2,654,423 | 12.2% | 11,532 | 115,489 | 271,954 | 853,566 | 414,747 | 786,096 | 188,253 | 4,776 | | | 0 |
| (3)他会計等への支出額 | 3,774,633 | 17.4% | 756,973 | 0 | 2,202,441 | 477,719 | 335,500 | 0 | 0 | | | | 0 |
| (4)他団体への 公共福祉整備補助金等 | 422,778 | 1.9% | 100,265 | 2,588 | 72,292 | 48,719 | 195,202 | 200 | 3,512 | | | | 0 |
| 小計 | 10,173,455 | 46.9% | 870,770 | 155,213 | 5,788,582 | 1,472,604 | 945,449 | 796,296 | 188,765 | 4,776 | | | 0 |
| 4 (1)支払利息 | 634,218 | 2.8% | | | | | | | | | 634,218 | | 0 |
| (2)回収不能見込計上額 | 148,102 | 0.7% | | | | | | | | | | 148,102 | 0 |
| (3)その他行政コスト | 0 | 0.0% | | | | | | | | | | | 0 |
| 小計 | 782,320 | 3.6% | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 634,218 | 148,102 | | 0 |
| 経常行政コスト a | 21,694,931 | | 2,191,284 | 2,403,036 | 6,993,446 | 2,361,456 | 2,425,125 | 990,818 | 3,336,521 | 210,525 | 634,218 | 148,102 | 0 |
| (構成比率) | | | 10.1% | 11.1% | 32.2% | 10.9% | 11.2% | 4.6% | 15.4% | 1.0% | 2.9% | 0.7% | 0.0% |

【経常収益】

| | | | | | | | | | | | | | 一般財源 振替額 |
|---------------------|------------|--|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|---------|-----------|---------|---------|---------|-------------|
| 1 既用料・手数料 b | 507,230 | | 87,788 | 85,454 | 147,990 | 53,205 | 18,915 | 0 | 42,486 | 0 | 0 | 0 | 70,906 |
| 2 分相金・負担金・寄附金 c | 253,390 | | 416 | 6,026 | 235,146 | 0 | 0,356 | 0 | 2,397 | 0 | 0 | 0 | 150 |
| 経常収益合計 (b + c) d | 760,620 | | 88,203 | 91,480 | 383,136 | 53,205 | 19,271 | 0 | 44,883 | 0 | 0 | 0 | 71,056 |
| d/a | 3.51% | | 4.0% | 3.8% | 5.5% | 2.3% | 1.2% | 0.0% | 1.3% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | |
| (差引)純経常行政コスト e=d | 20,934,311 | | 2,103,081 | 2,311,556 | 6,610,334 | 2,307,651 | 2,396,854 | 990,818 | 3,292,122 | 210,525 | 634,218 | 148,102 | △ 71,056 |

VII. 基本財務諸表

(3) 純資産変動計算書

普通会計純資産変動計算書 (自平成18年4月1日 至平成19年3月31日)

(単位:千円)

| | 純資産合計 | 公共資産等整備 国県補助金等 | 公共資産等整備 一般財源等 | その他 一般財源等 | 資産評価差額 |
|--------------------|--------------|-------------------|------------------|--------------|---------|
| 期首純資産残高 | 56,731,585 | 15,318,648 | 54,051,918 | △ 12,757,635 | 118,654 |
| 純経常行政コスト | △ 20,934,311 | | | △ 20,934,311 | |
| 一般財源 | | | | | |
| 地方税 | 5,185,897 | | | 5,185,897 | |
| 地方交付税 | 9,779,057 | | | 9,779,057 | |
| その他行政コスト充当財源 | 2,407,897 | | | 2,407,897 | |
| 補助金等受入 | 4,317,051 | 1,415,788 | | 2,901,263 | |
| 臨時損益 | | | | | |
| 災害復旧事業費 | △ 367,418 | | | △ 367,418 | |
| 公共資産除売却損益 | 10,524 | | | 10,524 | |
| 投資損失 | △ 5,724 | | | △ 5,724 | |
| 科目振替 | | | | | |
| 公共資産整備への財源投入 | | | 1,302,134 | △ 1,302,134 | |
| 公共資産処分による財源増 | | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 貸付金・出資金等への財源投入 | | | 59,126 | △ 59,126 | |
| 貸付金・出資金等の回収等による財源増 | | 0 | △ 526,994 | 526,994 | |
| 減価償却による財源増 | | △ 676,338 | △ 2,273,578 | 2,949,916 | |
| 地方債償還に伴う財源振替 | | | 2,103,016 | △ 2,103,016 | |
| 資産評価替えによる変動額 | 0 | | | | 0 |
| 無償受贈資産受入 | 0 | | | | 0 |
| その他 | 0 | | | 0 | |
| 期末純資産残高 | 57,124,558 | 16,058,098 | 54,715,622 | △ 13,767,816 | 118,654 |

(4) 資金収支計算書

普通会計資金収支計算書 (自平成18年4月1日 至平成19年3月31日)

(単位:千円)

| 1 経常的収支の部 | |
|--------------------|------------|
| 人件費 | 5,523,201 |
| 物件費 | 2,102,676 |
| 社会保障給付 | 3,321,621 |
| 補助金等 | 2,654,423 |
| 支払利息 | 634,218 |
| 他会計等への事務費等充当財源繰出支出 | 2,848,808 |
| その他支出 | 514,582 |
| 支出合計 | 17,599,529 |
| 地方税 | 5,192,601 |
| 地方交付税 | 9,779,057 |
| 国県補助金等 | 2,742,305 |
| 使用料・手数料 | 505,642 |
| 分担金・負担金・寄附金 | 247,780 |
| 諸収入 | 256,858 |
| 地方債発行額 | 1,189,500 |
| 基金取崩額 | 535,465 |
| その他収入 | 2,082,257 |
| 収入合計 | 22,541,465 |
| 経常的収支額 | 4,941,936 |

| 2 公共資産整備収支の部 | |
|-------------------|------------|
| 公共資産整備支出 | 4,547,598 |
| 公共資産整備補助金等支出 | 422,778 |
| 他会計等への建設費充当財源繰出支出 | 422,497 |
| 支出合計 | 5,392,873 |
| 国県補助金等 | 1,574,746 |
| 地方債発行額 | 1,976,400 |
| 基金取崩額 | 448,411 |
| その他収入 | 50,443 |
| 収入合計 | 4,050,000 |
| 公共資産整備収支額 | △1,342,873 |

| 3 投資・財務的収支の部 | |
|-------------------|------------|
| 投資及び出資金 | 0 |
| 貸付金 | 49,036 |
| 基金積立額 | 450,059 |
| 定額運用基金への繰出支出 | 0 |
| 他会計等への公債費充当財源繰出支出 | 520,784 |
| 地方債償還額 | 2,622,426 |
| 支出合計 | 3,642,305 |
| 国県補助金等 | 0 |
| 貸付金回収額 | 69,438 |
| 基金取崩額 | 0 |
| 地方債発行額 | 0 |
| 公共資産等売却収入 | 10,524 |
| その他収入 | 5,059 |
| 収入合計 | 85,021 |
| 投資・財務的収支額 | △3,557,284 |

| | |
|------------|-----------|
| 当年度歳計現金増減額 | 41,779 |
| 期首歳計現金残高 | 972,895 |
| 期末歳計現金残高 | 1,014,674 |